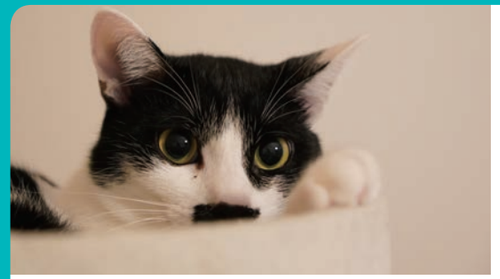
中性脂肪高くないですか？

犬猫も“脂質代謝異常”や“肥満”は
さまざまな病気の引き金になります。



詳しくはこちらをご覧ください。

bah bussan animal health



私ができること

定期的に検査をしよう

年齢や病気の状態に則した頻度で定期的に検査を受け、ステージ・状態を把握し、最適な治療・ケアをして。

食事量・飲水量（尿量）をチェックしよう

その他、食べ方や食事にかかる時間の変化もチェックして。

水分を積極的に摂らせよう

腎臓への負担を軽くするため＆引き金になりうる他のオシッコの病気の予防のために。



体重維持に努めよう

痩せていない猫のほうが
長生きしているというデータが！

（「Evaluation of Weight Loss Over Time in Cats with Chronic Kidney Disease」Journal of Veterinary Internal Medicine Volume30より）

早期発見でうまく付き合える可能性があります

慢性腎臓病は、完全に治すことはできないものの、かかった猫が平均寿命をはるかに超えて20歳まで生きた例も少なくありません。

この病気は、進行度合（ステージ）によってできる治療やケアとその効果に大きな差があります。飼い主さんがサインに早く気づき、ステージに合った治療やケアで進行を抑えることが大切です。

私ができること

慢性腎臓病について

猫がかかりやすい病気のひとつ「慢性腎臓病」についての正しい知識・付き合い方を知ることは、長生きの手がかりになりえます。

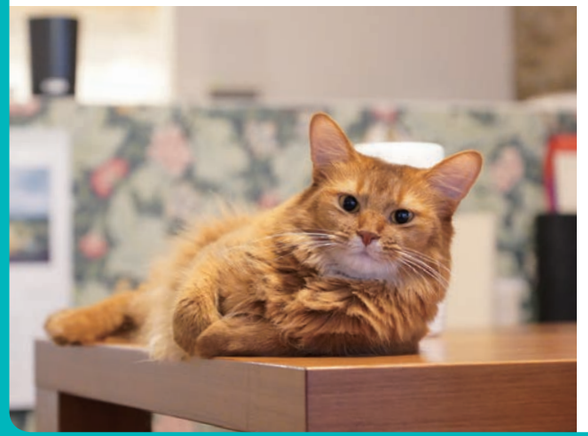
かかりやすさに年齢は関係ありません

もともと半砂漠地帯出身で肉食の猫は、少ない水で老廃物を排出するため、他の動物よりも腎臓に負担がかかりやすい動物です。また、先天的な腎疾患や、尿路結石などが原因となって慢性腎臓病に進行することも。

高齢の猫に多いことは確かですが、高齢の猫だけがかかるわけではないので、若いうちから注意が必要です。

慢性腎臓病ってこんな病気

何らかの原因で腎臓の機能が徐々に失われて行く病気。高齢猫の８割で認められていますが、若い猫でもかかる可能性があります。また、根本治療はありませんが、４つのステージごとに治療やケアを行います。

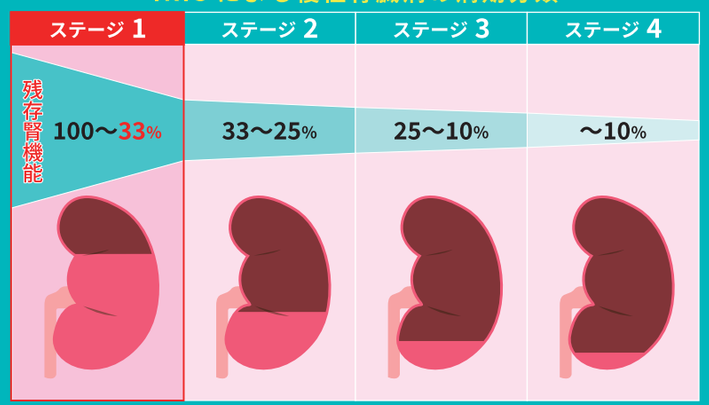


腎臓は大切！

症状がなくても、腎臓の機能が
残り３０％にまで減少していることもあります！

IRISによる慢性腎臓病の病期分類

ステージ１	ステージ２	ステージ３	ステージ４
残存腎機能 100～33%	33～25%	25～10%	～10%



国際獣医腎臓病研究グループ(IRIS)慢性腎臓病ガイドラインより



慢性腎臓病についてはこちらをご覧ください。

3465AH CRE

☑ 定期的に健康検査を受けましょう



飼い主さんには健康に見えていても、いつの間にか病気が進行していることも。よりよく年齢を重ねるためにも、元気なうちから定期的に健康検査を受けることが大切です。「健康」が確認できれば何よりですし、定期的な受診こそが、病気の早期発見・早期治療を可能にします。

どれも大切!

健康検査３セット

下の３つはどれも大切な検査ですが、１つの検査だけでは不十分なことも。
年齢や状態に合わせて検査を組み合わせ、全身をチェックすることが大切です。

血液検査

肝臓や腎臓などの各臓器の機能や、脂質代謝異常や貧血の有無など、おおまかな全身の状態を知ることができます。

画像診断

レントゲン・超音波検査では、血液検査で検出できない肺や関節の状態、臓器の形状、腫瘤の有無などを確認できます。

尿検査

膀胱炎や尿石症の有無はもちろん、腎臓・肝臓の機能や糖尿病などの内分泌疾患を調べられます。

**当院では犬猫の健康検査を実施しております。
お気軽にご相談ください。**

グッド・エイジングのために見逃したくない

３つの「未病」状態

「未病」とは、「健康」から「病気」へ向かっている状態のこと。
動物病院で調べたりおうちでケアすることで、
病態の進行を遅くしたり、再び健康へ向かわせたりできる場合もあります。
覚えておきたい３つの「未病」状態を紹介します。



— 1 —

酸化ストレス度が高い

体内で活性酸素が増え、細胞や組織が障害を受ける（＝サビつく）度合いが高いと、老化が進んだり、あらゆる病気にかかりやすくなったりします。抗酸化を意識したケアを取り入れてみても。

— 2 —

過剰に太っている・痩せている

過度の肥満は糖尿病や関節炎の悪化を引き起こしやすく、慢性腎臓病などの慢性疾患においては、痩せ過ぎると寿命が短くなるという研究報告もあります。※

— 3 —

脂質代謝異常

高脂血症とも呼ばれる、血液中の脂質（コレステロールや中性脂肪）の数値が高い状態。すい炎や糖尿病・肝障害などさまざまな病気のリスク因子と考えられています。

※「Association between body condition and survival in dogs with acquired chronic kidney disease」J Vet Intern Med. 2011 Nov-Dec より